



令和5年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和5年7月14日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3536 URL <https://www.axas-hd.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久岡 卓司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 新藤 達也 TEL 078-391-4000
 四半期報告書提出予定日 令和5年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年8月期第3四半期の連結業績（令和4年9月1日～令和5年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年8月期第3四半期	8,457	△2.3	166	△56.6	79	△72.5	58	△78.1
4年8月期第3四半期	8,656	—	383	29.6	286	27.1	266	38.0

(注) 包括利益 5年8月期第3四半期 65百万円 (△74.5%) 4年8月期第3四半期 258百万円 (36.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年8月期第3四半期	1.92	—
4年8月期第3四半期	8.77	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、令和4年8月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年同四半期増減率は記載していません。

※ 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
5年8月期第3四半期	17,511	2,122	12.1	70.01
4年8月期	18,914	2,178	11.5	71.83

(参考) 自己資本 5年8月期第3四半期 2,122百万円 4年8月期 2,178百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年8月期	—	0.00	—	4.00	4.00
5年8月期	—	0.00	—	—	—
5年8月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

※ 配当金の内訳

令和4年8月期期末 普通配当2円00銭 特別配当2円00銭

3. 令和5年8月期の連結業績予想（令和4年9月1日～令和5年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,285	△0.4	409	△7.8	260	△16.8	240	△6.7	7.94

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	5年8月期3Q	30,325,252株	4年8月期	30,325,252株
② 期末自己株式数	5年8月期3Q	一株	4年8月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	5年8月期3Q	30,325,252株	4年8月期3Q	30,325,252株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（令和4年9月1日から令和5年5月31日まで）のわが国の経済は、インフレと金融不安による信用収縮が実体経済の下押し圧力となり、途上国の過剰債務問題も火種としてくすぶる等、世界景気の不確実性が高まっております。国内においては、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の撤廃で各種イベントの再開が相次ぎ、各地で人出が回復し、消費マインドが改善される一方で、ウクライナ危機による原材料や資源エネルギー価格の高騰で生活必需品の値上げが相次ぐ等、消費者の体感インフレが高まっております。そのような経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の生活文化の質的な向上を「美・健康・ゆとりの側面」から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値の更なる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的な取り組みとして、新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用が個人の判断が基本となったことを受け、令和5年4月、アレックスコンフォート高松丸亀町グリーン（香川県高松市）において、メイク関連商品やトレンドコスメの売場を拡大する等、「脱マスク」に向けたリニューアルを実施いたしました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末におけるグループ店舗数は、44店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの経営成績につきましては、売上高は8,457百万円（前年同四半期比2.3%減）となり、営業利益は166百万円（同56.6%減）、経常利益は79百万円（同72.5%減）となりました。特別損失及び法人税等を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は58百万円（同78.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① 小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケアユニットでは、外出機会の増加に伴いメイク関連商品やファンデーション等の販売が好調に推移いたしました。ベビー、マタニティ用のスキンケア関連商品の販売が苦戦いたしました。

ライフスタイルユニットでは、家ナカを楽しむキッチン用品等の販売が落ち着き始めた一方で、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が解除されたことに伴い外出の機会が増えた影響で、レディースアパレル等の販売が好調に推移いたしました。

アスレユニットでは、これまで好調を維持してきた人気アパレルブランドの販売が落ち着き始めた一方で、プロサッカーチーム関連の大口販売やビッグサイズのメンズトップスの販売が好調に推移いたしました。

ホームキーパーユニットでは、透明水彩絵の具等、専門文具の販売が好調に推移いたしました。天候不順等の影響でブランド苗や野菜苗の販売が落ち込みました。

アルコユニットでは、ECサイトの高級シャンパンや神戸・東京エリアの店舗において樽出しウイスキーの量り売り等の販売が好調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は5,590百万円（前年同四半期比2.8%減）、セグメント利益は157百万円（同48.9%減）となりました。

② 卸売事業

卸売事業につきましては、新型コロナウイルスが5類に分類される等、市場環境は大きく変わりましたが、消費動向に大きな変化が見られず、ナイトマーケットを中心とした業務市場は厳しい環境が続きました。特に、ラグジュアリー的な要素が強いシャンパンの消費の回復が見られず、売上は低調に推移いたしました。一方で、様々な商品の値上げが続く中、価格訴求の強いワンコインワインや家飲み需要に適したコストパフォーマンスの高い低価格ウイスキー等は堅調に推移いたしました。六甲山蒸溜所においては、全国的な展示会や専門的な展示会等へ積極的に出展したことで、認知度の向上とともに取扱い先も拡大し、売上は順調に推移いたしました。しかし、ナイトマーケットを中心とした高価格帯商品の低迷と価格競争等が影響し、当セグメントの総利益額を押し上げるには至りませんでした。

これらの結果、売上高は2,673百万円（前年同四半期比1.8%増）、セグメント利益は226百万円（同0.1%減）となりました。

③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業につきましては、所有物件の価値を維持、向上させることにより、引き続き既存テナントから安定した売上を確保しております。

これらの結果、売上高は470百万円（前年同四半期比0.3%増）、セグメント利益は149百万円（同11.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は17,511百万円（前期末比7.4%減）となり、前連結会計年度末に比べ1,403百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金1,067百万円、棚卸資産450百万円等の減少によるものであります。

負債合計は15,388百万円（同8.1%減）となり、前連結会計年度末に比べ1,347百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金1,520百万円等の減少に対し、社債100百万円等の増加によるものであります。

純資産合計は2,122百万円（同2.5%減）となり、前連結会計年度末に比べ55百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益58百万円による利益剰余金の増加に対し、配当金の支払121百万円等による利益剰余金の減少によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は12.1%（前期末比0.6ポイント増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、令和4年10月14日付「令和4年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,382,133	1,314,936
売掛金	394,755	417,165
棚卸資産	5,360,316	4,909,467
預け金	30,047	30,143
未収還付法人税等	12,252	24,504
その他	249,286	302,740
貸倒引当金	△1,863	△2,129
流動資産合計	8,426,927	6,996,827
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,248,193	2,224,434
機械装置及び運搬具(純額)	302,525	287,737
什器備品(純額)	213,302	216,501
リース資産	9,093	8,743
土地	6,407,258	6,407,932
建設仮勘定	452	21,788
有形固定資産合計	9,180,826	9,167,137
無形固定資産		
のれん	14,340	13,598
借地権	58,348	58,348
ソフトウェア	38,621	45,329
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	119,132	125,099
投資その他の資産		
投資有価証券	102,500	114,171
繰延税金資産	336,883	332,491
敷金及び保証金	535,681	540,400
破産更生債権等	4,686	4,686
その他	204,903	221,030
貸倒引当金	△4,686	△4,686
投資その他の資産合計	1,179,968	1,208,094
固定資産合計	10,479,927	10,500,331
繰延資産		
社債発行費	7,472	13,918
繰延資産合計	7,472	13,918
資産合計	18,914,328	17,511,077

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	485,518	514,484
短期借入金	10,870,000	9,350,000
1年内償還予定の社債	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	289,904	289,904
リース債務	3,520	3,337
未払法人税等	23,899	18,280
賞与引当金	17,511	34,433
契約負債	12,690	—
未払金	217,347	167,621
その他	61,923	161,513
流動負債合計	12,182,315	10,539,574
固定負債		
社債	300,000	600,000
長期借入金	3,581,654	3,566,726
リース債務	6,682	6,631
役員退職慰労引当金	91,000	113,049
資産除去債務	194,958	203,012
受入保証金	336,077	322,297
その他	43,238	36,829
固定負債合計	4,553,610	4,848,546
負債合計	16,735,926	15,388,120
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	6,451	6,451
その他資本剰余金	1,680,035	1,680,035
資本剰余金合計	1,686,487	1,686,487
利益剰余金		
利益準備金	6,048	6,048
その他利益剰余金	441,556	378,419
利益剰余金合計	447,605	384,467
株主資本合計	2,184,092	2,120,954
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,690	2,001
その他の包括利益累計額合計	△5,690	2,001
純資産合計	2,178,402	2,122,956
負債純資産合計	18,914,328	17,511,077

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年9月1日 至 令和4年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年9月1日 至 令和5年5月31日)
売上高	8,656,843	8,457,516
売上原価	6,264,310	6,120,927
売上総利益	2,392,533	2,336,589
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	676,988	704,169
その他	1,332,274	1,466,242
販売費及び一般管理費合計	2,009,262	2,170,412
営業利益	383,271	166,176
営業外収益		
受取利息	265	212
受取配当金	950	1,071
その他	7,994	4,946
営業外収益合計	9,210	6,230
営業外費用		
支払利息	71,114	74,283
為替差損	18,800	4,550
その他	15,627	14,521
営業外費用合計	105,542	93,356
経常利益	286,938	79,050
特別利益		
固定資産売却益	2,727	—
特別利益合計	2,727	—
特別損失		
固定資産除却損	5,422	1,253
特別損失合計	5,422	1,253
税金等調整前四半期純利益	284,243	77,797
法人税、住民税及び事業税	17,889	19,221
法人税等調整額	290	412
法人税等合計	18,180	19,634
四半期純利益	266,063	58,163
親会社株主に帰属する四半期純利益	266,063	58,163

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年9月1日 至 令和4年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年9月1日 至 令和5年5月31日)
四半期純利益	266,063	58,163
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,383	7,692
その他の包括利益合計	△7,383	7,692
四半期包括利益	258,679	65,855
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	258,679	65,855

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和3年9月1日 至 令和4年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	5,751,464	2,437,130	—	8,188,594
その他の収益	—	—	466,500	466,500
外部顧客への売上高	5,751,464	2,437,130	466,500	8,655,095
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,474	189,133	2,981	193,589
計	5,752,939	2,626,263	469,481	8,848,685
セグメント利益	308,794	226,636	168,178	703,608

(単位:千円)

	その他(注)1	合 計	調整額(注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,748	8,190,343	—	8,190,343
その他の収益	—	466,500	—	466,500
外部顧客への売上高	1,748	8,656,843	—	8,656,843
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	193,589	△193,589	—
計	1,748	8,850,433	△193,589	8,656,843
セグメント利益	1,669	705,278	△322,007	383,271

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△322,007千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 令和4年9月1日 至 令和5年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	5,587,211	2,401,471	—	7,988,682
その他の収益	—	—	467,372	467,372
外部顧客への売上高	5,587,211	2,401,471	467,372	8,456,054
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,975	272,279	3,439	278,695
計	5,590,186	2,673,751	470,812	8,734,750
セグメント利益	157,933	226,393	149,504	533,832

(単位：千円)

	その他（注）1	合 計	調整額（注）2	四 半 期 連 結 損 益 計 算 書 計 上 額（注）3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,462	7,990,144	—	7,990,144
その他の収益	—	467,372	—	467,372
外部顧客への売上高	1,462	8,457,516	—	8,457,516
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	278,695	△278,695	—
計	1,462	8,736,212	△278,695	8,457,516
セグメント利益	1,268	535,100	△368,923	166,176

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△368,923千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第4四半期連結会計期間より、業績管理区分の見直しに伴い、従来「小売事業」に計上していたウオールデコ株式会社を「卸売事業」に計上しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

当社は、令和5年6月30日開催の取締役会において、当社連結子会社であるアクサス株式会社（以下、「アクサス」という）が、株式会社ノースカンパニー（以下、「ノースカンパニー」という）及び株式会社ハイブリッジ（以下、「ハイブリッジ」という）並びに株式会社コスメバンク（以下、「コスメバンク」という）の全株式（間接保有分を含む）を取得し、子会社化することを決議いたしました。また、同日付で株式譲渡契約を締結し、全株式（間接保有分を含む）を取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	事業の内容
ノースカンパニー	無店舗小売業（EC）の経営
ハイブリッジ	無店舗小売業（EC）の経営
コスメバンク	輸入化粧品の成分検査

② 企業結合を行う主な理由

当社連結子会社であるアクサスの小売事業は、リアル店舗での売上が大半を占めている中、消費者の消費動向が老若男女問わずECでの購買スタイルに変貌しつつあることを踏まえ、EC事業を拡充する必要性があると考えております。

今回、連結子会社化を検討している対象会社グループは、創業以来、EC事業を専業として取り組むことで業容を拡大してきており、特に輸入化粧品、香水等に強みを持っております。本件に取り組むことにより、当社グループのEC事業の拡充が図れるとともに、対象会社グループのEC事業と当社グループのリアル店舗での小売事業を融合させることにより、精度の高い商品選定やマーチャンダイジングが可能となると考えております。また、対象会社グループが取り扱っている商品は、当社のヘルス&ビューティケアユニットで取り扱っている商品と近い関係にあり、本件に取り組むことにより、EC事業及びリアル店舗での小売事業における仕入れを一本化し、仕入単価の低減が可能になると考えております。また、対象会社グループは輸入化粧品、香水が主力商品であります。国内化粧品を当社の仕入れルートを経由することにより対象会社グループに供給することが可能となり、これにより国内化粧品を含めた幅広い商品ラインアップをEC事業に展開することが可能となり、対象会社グループの業容拡大の蓋然性が充分見込めると判断しております。

また、対象会社のEC事業の消費動向及び当社グループのリアル店舗の消費動向のマーケティング情報を収集し、AI解析すること等により、更に精度の高い商品選定等、マーチャンダイジングに活かすことにより、美・健康・ゆとりの側面から時代の空気を、いち早く消費者にお届けすることが可能になると考えております。

以上の理由により、本件に取り組むことが、対象会社グループを含めた当社グループの企業価値の向上に寄与する案件であると判断し、当社連結子会社であるアクサスが、ノースカンパニー及びハイブリッジ並びにコスメバンクの全株式を取得することにより当社の連結子会社（孫会社）とすることといたしました。

③ 企業結合日

令和5年6月30日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更ありません。

⑥ 取得する議決権比率

被取得企業の名称	取得した議決権比率
ノースカンパニー	100.0%
ハイブリッジ	100.0%（間接保有分含む）※
コスメバンク	100.0%

※ノースカンパニーの子会社化に伴い、当該会社が保有しているハイブリッジの株式を合わせると議決権所有割合100.0%になります。

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社連結子会社であるアクサスが、現金を対価として株式を取得することによるものです。

(2) 被取得企業（上記3社合計）の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	956,000千円
取得原価		956,000千円

(3) 主要な取得関連費用の内訳

アドバイザーに対する報酬・手数料等（概算） 76,130千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びに主な内訳

現時点では確定しておりません。